

平成 28 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

■ 高等教育を取り巻く環境

昨今の世界情勢は不安定要素が増し、シリアの内戦や中東地域で頻発するテロ事件、朝鮮半島での長距離ミサイルの打ち上げなど、軍事的緊張が高まる一方、中国経済の減速や原油価格の下落による株価低迷によって、経済においても先行き不透明な様相を呈している。

国内では、現政権による積極的な経済政策、日本銀行の金融政策によって、株価、為替、雇用などに明るい兆しが見え始めたかに見えたが、既に景気の減速感も現れており、引き続き難しい経済運営となっている。政策面では安全保障政策の転換に対して、国民的議論が起こるなど、様々な場面で大きな転換点に差し掛かっている。

これら国際情勢の変化や国内社会の動向を踏まえ、文部科学省は、グローバル化、産業界と大学の連携、地域・社会貢献、教育の質的転換など、大学に求める社会的役割を明確に示している。また、大学入試センター試験に代わる新たな試験制度の導入を表明するなど、さらなる改革を促している。

■ 本学の現状

創立 74 年目を迎える今年度は、工学部の改組を始めとして、創立 100 年に向けての取り組みをさらに積極的に実行していく。

教育・研究では、継続して取り組んでいる様々な教育支援策によって、退学者・留年者の抑制がさらに進んでいる。また、教育改革に加え社会のニーズに的確に対応していくため、工学部の改組を文部科学省に届け出を行い、平成 28 年 4 月、工学部 6 学科、創造工学部 3 学科、先進工学部 3 学科を新設した。

未来ロボット技術研究センターでは、ロボット技術応用の知能化安全技術を搭載した未来のモビリティ「ILY-A」を開発した。惑星探査研究センターでは、宇宙からの流星観測を行うために超小型衛星プロジェクト及び国際宇宙ステーションに設置する超高度カメラ「メテオ」プロジェクトを実施している。27 年度は「S-CUBE」を国際宇宙ステーションから放出したが、メテオの打ち上げに関しては輸送ロケットの度重なる爆発事故に見舞われ延期となったが、3 度目の挑戦によって成功し、今後の運用が期待される。

このほか、ロボカップ世界大会 2015 では、未来ロボティクス学科と未来ロボット技術研究センターが協働し、ヒューマノイドリーグキッドサイズ部門で 2 年連続優勝を果たすなど、本学の研究成果が世界で躍動している。さらに、既存の 3 研究センターに加え、4 月には国際金融研究センター、次世代海洋資源研究センター設立準備室を開設するなど、先端研究を今後も積極的に進めていく。

本学の一般入試志願者動向は、工学部改組、教育研究体制の充実、入試制度の改革、積極的な広報展開、キャンパス再開発などの取り組みによって引き続き回復基調にある。平成 28 年度入学試験では過去最高となった昨年度をさらに大幅に上回り、志願者増加数で全国 1 位、志願者総数では全国 9 位となった。しかし、この結果に満足することなく、本学のブランディング作りを推し進めながら、教育課程改革、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の強化を引き続き進めていく。

■ 平成 28 年度事業計画

1. 教育・研究

大学が人材育成の拠点としてその教育・研究機能を最大限に発揮していくためには、学長のリーダーシップのもとで大学を戦略的に運営できるガバナンス体制が求められている。本学はこの趣旨に沿って、学則をはじめとした学内諸規定を整備し、学長を中心とした機動的な運営体制を構築した。平成 28 年度も建学の精神に基づき、教育目標を達成すべく教育改革及び研究の活性化を推進する。

平成 28 年度より工学部を新たに工学部、創造工学部、先進工学部の 3 学部改編し、5 学部 17 学科体制での運営を開始するにあたり、「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を一体的に定め、点検・評価を通じて大学教育の改革・改善に不断に取り組むためのシステムを構築する。

工学部の改編に伴い、教育課程の抜本的な見直しを行った。特に教養教育については、中央教育審議会答申等で示された学士力の養成、すなわち知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合力・創造力を養うことを念頭に、アクティブラーニングやインターンシップなど主体的な学びも多く取り入れ、専門科目とともに教育課程の体系化、単位の実質化に向けて大きく転換を図った。平成 28 年度は、全学をあげてこの新たな教育課程による効果をあげるべく努力する。更に、大学院及び工学部以外の学部の改編・教育課程の見直しについて、新設の研究所等とも連携して引き続き検討する。

教育方法の改善については、教育活動の質的向上と活性化を目的として、教育法の専門家によるセミナーの開催、学外講師を含め教員相互で教育活動に関する自由闊達な意見交換を行う「FDフォーラム」の開催や、先駆的な授業方法を取り入れている講師を学外から招いて「FD講演会」を開催するなど、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の継続的な推進を図る。さらに、SD研修への教員参加を拡大し、教職協働による教育支援体制を拡充する。

また、従来からの教育業績表彰制度に加え、平成 26 年度から授業アンケートの結果を反映したグッドレクチャー賞やベストティーチャー賞を創設し、教育改善に対する教員の工夫・努力を適切に評価する体制を整備している。これらの表彰を受けた教員の授業は、他の教員にも公開し授業改善の参考としているほか、全教員を対象とした教育方法の講習会等も引き続き実施する。

学部・大学院の学生に貸与しているタブレット型端末は、平成 28 年度には全学生に貸与する環境が整うため、これをさらに有効活用し、学生と教職員間のコミュニケーションを促進するとともに、教職協働による学修支援体制を今後も継続する。キャリア教育については、1 年次からの教養科目としてキャリア科目を開設しており、引き続き体系的なキャリア教育の充実を図る。

大学院においては、本学附属の各研究所等と連携した教育・研究体制を充実させるとともに、学部学生に対して大学院開講科目の受講を認める新たな制度を創設、英語での講義の拡充など、学部から大学院への進学率の向上を目指し、留学生も含めた学生数の確保を図る。また、大学院生の研究者倫理に関する意識向上を目的として、全専攻共通科目である「技術者・研究者倫理」を開講しているほか、大学院生のプレゼンテーション能力、語

学能力の向上のため「論文作成・プレゼンテーション技法特論」を開講している。

現在大学として重点的に取り組んでいる留年者や退学者の抑制策については、追加的な補習授業の実施や再試験制度及び仮進級制度の導入により、授業の到達目標や評価基準を維持しつつ、留年者及び退学者の減少に効果をあげている。平成 28 年度もこれらの諸施策を継続するとともに、学生サポーター制度や博士教育補助員制度を有効に組み合わせ、活用することにより、多様化する学生に対してきめ細かい学修支援を実施する。

国際化については、海外のトップクラスの大学との交流協定を引き続き積極的に拡大し、留学生の受入れ及び本学学生の海外留学ともに増加させる。そのため、本学学生が海外からの留学生に接する機会を積極的に設け、学生に外から日本を知る海外留学への興味を抱かせるとともに語学力の向上にもつなげる。また、大学のグローバル教育・交流の拠点となっている学生寮については、桑蓬寮、椿寮に加え平成 28 年度には新たに国際交流会館が完成する。これらの施設を積極的に活用し、夏期休暇中に本学学生と留学生を対象とした授業科目の開設や、留学生との文化交流等を実施する。さらに、新たに創設された「小川勉国際交流支援基金」により、広くアジアや中南米等の新興国から経済的な支援を必要とする留学生を受け入れ、出身国のリーダーとなり得る人材の育成に寄与する。

地域社会との連携については、包括連携協定を締結している市町等を中心に、今後も協力関係を維持し、地域の児童がロボットなどの最先端技術に触れる機会を設けるなど、地域における理工系人材の育成に寄与すべく活動を続けている。また、本学の学生がまちづくりや地域のグローバル化推進のプロジェクトに参加する機会を今後も積極的に創出していく。

研究及び産官学連携については、「学校法人千葉工業大学産官学連携協議会」を通じた活動のほか、研究の活性化と産学連携の強化を推進し、積極的に外部資金の獲得に取り組む。また、研究費の適正使用及び研究者倫理に関する規程の整備・運営体制については、今後も文部科学省等の定めるガイドラインに沿って、大学の社会的責任を果たすよう努める。既に整備した安全保障貿易管理体制、利益相反管理体制、動物実験・組み換え DNA 実験・人を対象とする研究倫理審査については確実に実行するとともに、更に充実したコンプライアンス遵守体制の構築を進める。

〔具体的項目〕

- (1) 学生の満足度向上へ向けた継続的対応
 - ① 学生生活アンケート調査の見直しと実施
 - ② 授業アンケート調査の活用
 - ③ 大学生基礎力調査（自己発見レポート）の活用
 - ④ ICT を活用した総合的なサービス
 - ⑤ 単位互換制度
- (2) 留学生の派遣及び受け入れ体制の充実
 - ① 留学生への支援の充実
 - ② 海外交流協定大学との学生交換プログラムの拡充
 - ③ 学生への留学情報提供と留学促進
 - ④ 学生寮を活用した学生交流の充実
 - ⑤ 在籍管理等の強化

- (3) 学生支援の充実強化（学生相談，課外活動，学生寮，奨学金等）
 - ① S A制度（学生サポーター）・P Dの採用
 - ② 学生相談（カウンセリング，学生 S A）
 - ③ 課外活動支援の充実
 - ④ 学生寮生に対する支援
 - ⑤ 奨学金支援活動
 - ⑥ 転学部・転学科制度の導入
 - ⑦ 障害学生支援の充実
- (4) 学生共済会の充実
 - ① 見舞金給付
 - ② 学生納付金貸与制度
 - ③ ころとからだの元気サポート
 - ④ 暮らしの法律相談
 - ⑤ 損害保険
 - ⑥ 備蓄食の購入
- (5) 入学前教育の充実
 - ① ウォーミングアップセミナーの検証と改善
- (6) 教養基礎教育カリキュラムの充実
 - ① TOEIC 試験実施
 - ② テーマ別履修の実施と課題探究セミナーとの連携
 - ③ 教養特別科目（ボランティア，国内インターンシップ，国外インターンシップ，ソーシャルアクティブラーニング，スポーツアクティブラーニング等）の実施
- (7) 初年次教育の充実
 - ① キャリア教育の実施・充実（学習技術含む）
 - ② 学習支援センターの充実（S A・P Dとの連携）
 - ③ 初年次教育科目における新たな教材作成の取組（サイバー大学との連携）
 - ④ グローバルラウンジの充実
- (8) 教職員が連携した就職支援の強化
 - ① 学生個々へのアプローチ
 - ② 学科独自の支援行事の実施
 - ③ 企業交流の拡充
- (9) キャリア教育科目実施サポート
- (10) 大学院への進学支援
 - ① 横断的プログラムの実施
 - ② 高まる社会ニーズの学生・保護者への周知
- (11) キャリア形成支援プログラムの強化
 - ① 企業との連携
 - ② 新規・現行プログラム実施・検証
 - ③ 資格取得講座の実施・検証

- (12) インターンシップの促進
 - ①企業との連携
 - ②新規・現行プログラムの実施・検証
- (13) 新入生に対する少人数制による総合的な支援
 - ①オリエンテーションの教職協働実施
 - ②クラス担任制
- (14) 習熟度別教育の充実
- (15) 包括的連携協定に基づく神田外語大学との連携事業推進
- (16) 高大接続改革に向けた入試制度の検討
- (17) 大学院志願者増加に向けた取組
- (18) 競争的研究資金等外部資金獲得支援
 - ①研究費の効率的な助成
 - ②外部研究費に関する研究者への情報提供
- (19) 参考図書及び教科書の拡充
- (20) 利用者目線に沿った学習環境の維持・整備
- (21) 自学自習やアクティブラーニングの支援、図書館利用促進
- (22) 研究状況・成果の積極的情報発信
- (23) 知的財産の効率的な活用
- (24) 無線LAN環境、シンクライアントシステムの安定稼働
- (25) インシデント発生時の連携体制確立
- (26) 工学部改編に伴うコンピュータ演習室のリプレイス
- (27) 日本科学未来館のロボット展示スペース監修
- (28) 高大連携授業の積極的開催および本学のブランディングの確立
- (29) ロボット研究関連の助成金・奨学寄付金申請
- (30) 「morph3」「ハルキゲニア 01」「ハルクⅡ」「core」「ILY-A」の継続研究
- (31) レスキューロボットの継続研究およびロボカップへの参加
- (32) 原発災害対応ロボットの研究
- (33) 新型ロボットプロジェクトの推進
- (34) 国際宇宙ステーションからの流星観測（メテオプロジェクト）
- (35) 大気球による成層圏微生物・ウィルス捕獲プロジェクト
- (36) 高速衝突銃プロジェクト
- (37) 小型観測ロケットプロジェクト
- (38) ファイングレイン画像認識プロジェクトの推進
- (39) 動作認識の研究開発のためのデータセット構築
- (40) 画像の日本語キャプション生成プロジェクトの推進
- (41) スーパーコンピュータにおける機械学習の効率的実行の調査
- (42) 連携協定締結団体との共同事業の推進

2. 管理運営

昨年度から始まった新習志野校舎の再開発計画の一環として、今年度も引続き、新食堂棟前の広場となる旧体育館跡地の整備工事・7号館（旧食堂棟）の解体工事及び新講義棟の新築工事实施を推し進める。工事においてはこれまで同様、校舎内の安全確保に十分配慮して行うように留意する。施設設備の充実と言う側面からは、茜浜のサッカー場を人工芝化するなど、教育研究活動や課外活動の充実を図っていく。

一方、既存建物の維持・管理に関しては、今年度も必要最小限の補修工事を行い維持・管理していく傍ら、キャンパス全体の中長期的な改修計画に基づいて各種工事計画の内容を精査しながら準備を進めていく。

〔具体的項目〕

（1）施設・設備関係

- ①新習志野校地：旧体育館跡地整備工事
- ②新習志野校地：7号館（旧食堂棟）解体工事・新講義棟の新築工事实施
- ③新習志野校地：8号館照明更新計画（2ヵ年計画 2年目）
- ④茜浜運動施設：サッカー場改修工事

（2）組織等

- ①自己点検・評価の継続実施
- ②法人及び大学の諸活動に係る調査データの収集・分析
- ③研究費・研究活動不正防止ガイドラインに伴う学内の運営管理
- ④公的研究費等の監査の実施
 - ・監査の実施（通常監査，特別監査）
 - ・不正防止計画のモニタリング
 - ・財産監査
- ⑤会計及び業務監査
 - ・自己管理型点検評価チェックリストシステムの実施
- ⑥公益通報への対応
 - ・公益通報制度の周知徹底
 - ・公益通報制度受付対応マニュアルの点検
- ⑦職員力向上のためのSD（スタッフ・ディベロップメント）の継続実施
- ⑧75周年に向けた周年誌の作成

以上